Ⅷ. 国公私を通じた大学教育改革支援プログラムの状況及び他の公的資金との関係 【1ページ以内】

1. 国公私を通じた大学教育改革支援プログラムの状況

今まで大学改革推進等補助金による経費措置を受けている場合は、それらの名称及び内容について全て記入してください。その際、現在の取組状況についても記入してください。（1事業について3～4行程度を目安に記入してください。）
なお、今回の申請に繋がる取組の場合は、どのように発展・充実させたかわかるように記入してください。

〇大学改革推進等補助金

①プログラム名：戦略的大学連携支援事業
取組名　：知の拠点としての地域をリードする大学間教育ネットワーク推進事業
実施期間　：平成 20～22 年度（佐賀大学より送金）
現在の取組状況：県内の6大学構成の「大学コンソーシアム佐賀」において、単位互換制度による教育共有化の促進、学生の大学間交流活動への支援、FD/SD活動の推進、地域連携活動等の事業を展開

②プログラム名：大学間連携共同教育推進事業
取組名　：大学間発達障害支援ネットワークの構築と幼保専門職業人の養成
実施期間　：平成 24 年度～（佐賀大学より送金）
現在の取組状況：さらに、上記①の地域社会に貢献するために佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県社会福祉協議会、佐賀県内の幼稚園・保育所関係団体と連携し、地域の課題である、発達障害のある幼児への支援体制を構築するとともに、大学コンソーシアム佐賀の構成大学において、発達障害のある幼児に対する確かな支援力をもつ幼稚園教諭と保育士（幼保専門職業人）の育成を行い、「子ども発達支援士」の資格を認定する事業を開始し、平成 25 年度からの本格的な事業実施に向けて、大学間共通教育プログラムを開発し、教育内容・方法の検討、大学間発達支援ネットワークの構築のための準備等を着々と進めている。
※今回の申請に繋がる取組（発展・充実）：平成 25 年 4 月に「小城市教育員会と西九州大学との不登校児支援についての連携に関する協定」締結に発展している。

③プログラム名　：大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）
取組名　：就職活動コーディネート強化による就職の質向上プロジェクト
実施期間　：平成 21～23 年度

④プログラム名　：大学生の就業力育成支援事業
取組名　：真の就職率ナンバーワンプロジェクト
実施期間　：平成 22～23 年度
現在の取組状況　：平成 23 年 1 月に学内組織「あすなろうセンター」を設置し、専門教科を担う各学科、実際に就業支援を行う学生支援課、修学状況を把握する教務課と連携を取りながら、人間教育及び幅広い職業人養成に関する教育的指導・支援に取組んでいる。予算的にも、下記⑤へ組替え継続している。

⑤プログラム名　：産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
取組名　：地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト
実施期間　：平成 24 年度～（福工大より送金）

※④及び⑤は地域へ学生を送りだし、様々な体験をさせる仕組み（ボランティア・地域の課題解決学修など）を包含した取組である。今回の申請においても⑤の補助期間終了後にではあるが、本取組内に取り込み、共通教育における地域志向プログラムとしてさらに充実化させていく予定である。

2. 他の公的資金との関係

地域再生・活性化に係る他省庁の事業による支援を受けている、又はこれから受ける可能性がある場合は、事業名と本申請との関係を記入してください。

該当なし

Ⅸ. 概要資料

事業全体を説明する概要資料を A4 1枚で作成してください。文章のみで説明するのではなく、視覚的に分かりやすいものとしてください。

（様式２）

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクトの一覧

佐賀大学

A: 学生参画による調査・交流・活動を通した地域創成プログラム　代表：五十嵐勉准教授
- 教養教育の改革（インターフェース領域）
- 全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学コース」・「異文化理解コース」・「生活と科学コース」部門「短期留学生プログラム」部門
- 西九州大学グループ地域連携センター（J）

B:学生参画による調査・対話・活動を通した環境保全プログラム　代表：郡山益実准教授
- 教養教育の改革（インターフェース領域）
- 全学教育機構インターフェース「環境コース」部門

C:地域の高齢者および子どものヘルスプロモーション促進に向けた学生の実践力育成プロジェクト　代表：井上伸一教授
- 実践力の養成
- 文化教育学部健康スポーツ学講座

D:地域との連携による地域経済政策に関わる学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元代表：納富一郎教授
- 実践力の養成
- 経済学部地域経済センター
- 全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学コース」部門

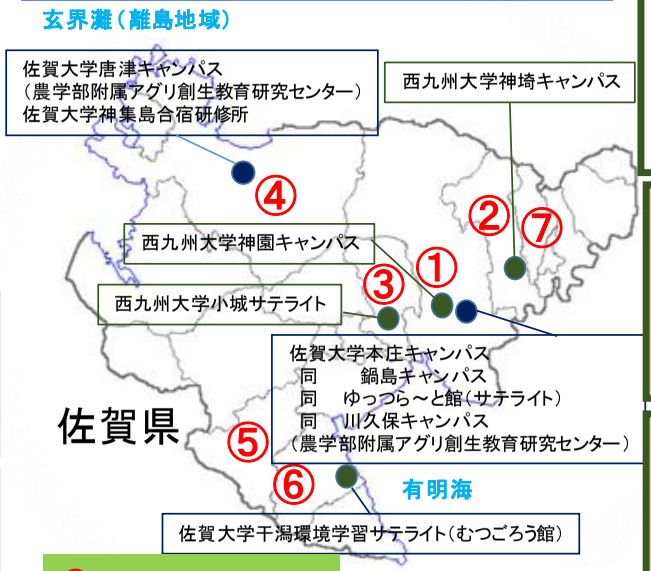
E:離島・山間地域における保健医療とQOLの向上のための人材育成プロジェクト　代表：杉岡　隆教授
- 「へきち」保健医療人材の育成
- 医学部地域医療支援学講座・地域医療科学教育研究センター・社会医学講座予防医学分野
- 農学部生物環境科学科地域社会開発学講座
- 全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学」部門
- 連携大学：自治医科大学

F:地域空間再生デザイン・プログラム代表：三島伸雄教授
- デザインクリエーターの養成
- 工学系研究科都市工学専攻
- 全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学コース」部門
- 西九州大学グループ地域連携センター（L）

佐賀大学・西九州大学連携プロジェクト

連携自治体と教育研究プロジェクト（A～L）の関係

①佐賀市：A,B,C,E,F,G,H,J,K,L
②神埼市：H,I,K　③小城市：D,F,I,J,K,L
④唐津市：A,E,F　⑤嬉野市：F,K
⑥鹿島市：A,B,F　⑦吉野ヶ里町：A,H,K
⑧佐賀県：all（含.佐賀地域経済研究会：D）



⑧（佐賀地域経済研究会）

G:アグリ資源の多様性を活用したアグリ医療及び機能性食品の開発プロジェクト
代表：上埜喜八准教授
- アグリ医療・セラピー教育領域の開拓
- 機能性食品の開発に関わる人材の育成
- 農学部アグリ創生教育研究センター
- 医学部地域医療科学教育研究センター
- 西九州大学リハビリテーション学部（H）
- 西九州大学健康福祉学部健康栄養学科（K）

西九州大学

H:介護（認知症）予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム　代表：上城 憲司准教授
- 保健医療福祉専門職の養成
- リハビリテーション学部
- 西九州大学グループ地域連携センター
- 佐賀大学農学部（G）

I:保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム
代表：柳田 晃良教授
- 地域問題抽出力と実践力の育成
- 健康福祉学部
- リハビリテーション学部、子ども学部
- 西九州大学グループ地域連携センター

J:「街なかサポーター」活動を通した安心生活づくり
代表：岡部 由紀夫講師
- 中心市街地活性化のための企画・実践力の養成
- 西九州大学グループ地域連携センター
- 健康福祉実践センター
- あすなろうセンター
- 佐賀大学全学教育機構（A）

K:産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト
代表：安田 みどり教授
- 商品開発・企画・実践力の養成
- 健康福祉学部健康栄養学科
- 西九州大学グループ地域連携センター
- 佐賀大学農学部（G）
- 連携大学：西九州大学短期大学部

L:地域住民と連携した交通UDプロジェクト
代表：酒井　出教授
- 実践力の養成
- 健康福祉学部
- 子ども学部
- 西九州大学グループ地域連携センター
- あすなろうセンター
- 佐賀大学工学系研究科都市工学専攻（F）

Ⅹ. 複数大学での連携について 【3ページ以内】

複数大学で連携する必要性、重要性

個々の大学での地域を志向した全学的な教育・研究・社会貢献に加えて、複数大学で連携することの必要性・重要性や利点を記入してください。
「Ⅱ.「地域」の設定」、「Ⅲ. 地域を志向した教育・研究・社会貢献の現状と達成目標」、「Ⅳ. 地域を志向した具体的な取組」「Ⅴ. 学内の実施体制等」、「Ⅵ. 自治体等との関係」、「Ⅶ. 事業実施計画等」については、それぞれの項目について、連携することの必要性・重要性や利点を記入してください。

本取組は、本学と佐賀大学が連携して行う。連携にて行う必要性・重要性および利点を以下にまとめる。

「地域」の設定について

佐賀大学と西九州大学は、同じ佐賀県内にキャンパスをもつ、4 年制の大学であり、大学における研究シーズおよび学生の力に対し、地域から大きな期待がもたれている。両大学が共同で申請を行う目的は、「佐賀大・西九大ともに佐賀県全域をキャンパスと位置づけ、学生・教職員による実践的な教育研究を通して、地（佐賀県地域）と知（教育研究）のアクティベーションを進めることで佐賀の地における知の拠点を目指すこと」である。両大学の教育・研究シーズを集約することができれば、県をはじめ連携する自治体が抱える地域課題（商業振興、中心市街地活性化や中山間地・離島問題など）に対し包括的に関与することが可能となり、課題解決の相乗的な効果が期待できる。地域課題に効果的に対処するために、それぞれの大学が得意とするシーズで対応していくという手法をとったのである。両大学は県全域の知の拠点を目指すわけであるが、その手始めとして、県以外の7つの自治体（佐賀市、神埼市、小城市、唐津市、嬉野市、鹿島市、吉野ヶ里町）を中心に具体的なプロジェクトを実施する。当然のことではあるが、将来的には連携・協力を行う地域の拡大や取組の深化等が発生すると想定している。本学はこれまでに構築してきた自治体との関係をもとに、7 つの自治体から特に取組成果があげられると想定される、佐賀市、神埼市、小城市、吉野ヶ里町を取組実施の自治体として選定した。

地域を志向した教育・研究・社会貢献の現状と達成目標

本学は、健康・福祉・教育に寄与する専門職業人を養成することを目的としている。当然本学が有する教育・研究シーズもそれら専門職に関連するものが大半を占めている。一方、佐賀大学は佐賀地域の総合大学であり、本学が不得手とする教育・研究シーズを有している。それぞれの得意分野における大学のシーズを活用することで、それぞれの地域のもつ課題を総合的に網羅的に解決することが、また新産業の創出と地域の活性化を促すことが可能となる。

地域に若者が存在することで生み出される新たな潮流（地域活性化）への自治体からの要望は強力である。両大学は、各プロジェクトの実施をカリキュラムで担保するという手法をとった。これにより、地域に両大学の若者たちの力（学生力）を集約することが可能となる。

両大学が共同で取組を行うことで、それぞれの大学が有する拠点も活用できることとなる。これにより、市民講座等の共催による社会貢献活動の多様化を推し進めることが可能となる。

地域を志向した具体的な取組

本学では5つのプロジェクトを立ち上げる。これらすべてのプロジェクトは地域を志向した具体的な取組である。佐賀大学との連携により、さらに地域力を高めるメリットについて以下に示す。

・プロジェクト 1： 介護（認知症）予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム
佐賀市、神埼市、吉野ケ里町で取り組むプロジェクトで、本学はリハビリの専門分野の教員・学生が認知症予防事業に取り組むが、佐賀大学農学部のアグリ部門で癒しの療法を取り入れることで、さらに拡がりのあるプログラムとなる。

・プロジェクト 2： 保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム
小城市と神埼市において本学のみが取り組むこととしているが、将来的には佐賀大学医学部等の協力を得て、より高度な取り組みとする。

・プロジェクト 3：「街なかサポーター」活動を通した安心生活づくり
佐賀市や小城市における中心市街地の空洞化が問題となっており、魅力的な中心市街地の活性化が求められている。この課題に対して、本学と佐賀大学の教員や学生が連携して取り組むことで、より包括的で網羅的な課題解決につながる。

・プロジェクト 4： 産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト

このプロジェクトは、教育カリキュラムの中で食品開発スキルを持つ学生を育成し、学生の企画力および実践力を養うとともに、地域活性化につなげることを目的とし、本学と佐賀大学農学部と共同で取り組む。これは、佐賀市、神埼市、小城市、嬉野市、吉野ヶ里町の豊富な地域特産物を利用し、機能性の研究では主に佐賀大学農学部、商品開発では本学健康栄養学科と両大学の強みを生かした地域色豊かな研究となる。

・プロジェクト 5:　地域住民と連携した交通 UD プロジェクト

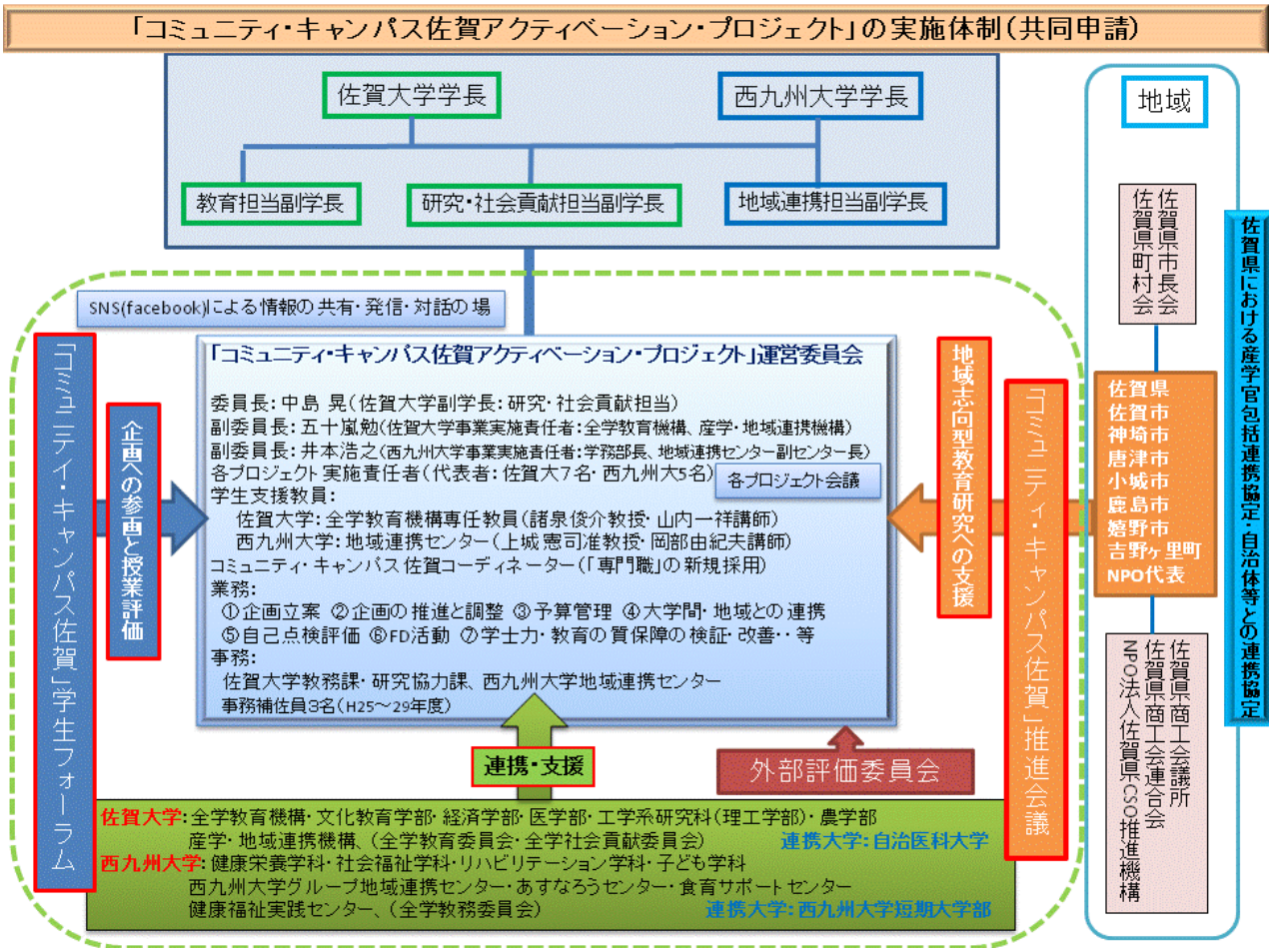
本プロジェクトは、公共交通等の地域課題に対し、本学が福祉分野にて主導的に取り組むが、都市デジタルコンテンツや空間デザインからのアプローチを佐賀大学工学研究科にて行うこととし、それぞれの大学の特徴を生かしたプロジェクトする。

学内の実施体制等

佐賀大学と西九州大学は、取組に関する共通の評価体制を敷き、取組全体の改善を進展させる仕組みをつくることで、この取組の目的である「佐賀県全域をキャンパスと位置づけ、学生・教職員による実践的な教育研究を通して、地（佐賀県地域）と知（教育研究）のアクティベーションを進めることで佐賀の地における知の拠点を目指すこと」の具現化を図ることとした。

本事業では、佐賀大学との共同委員会である『「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」運営委員会』が事業の進捗状況を自己点検及び評価する。また、同委員会は地域と大学間の連携会議（佐賀県における産学官包括連携協定・自治体等との連携協定に基づいた県・市・町・NPO　等との連携）『「コミュニティ・キャンパス佐賀」推進会議』から地域志向型教育研究への提言、協力を受けることとなっている。外部評価に関しても、学識経験者、地域再生プランナー、地元企業、NPO　代表等からなる外部評価委員会を設立し、両大学が実施する事業全体の評価を行ってもらう。自己点検評価、外部評価を基に両大学の取組は改善実施される。

また、本学企画委員会（委員長：学長）のガバナンスのもと、中期計画を実現するためのアクションプログラム（年次計画）内に、本学が佐賀大学と共同して行う予定の5プロジェクトに関しても、該当するセンター、学科に達成目標を設定し、実現することを義務付ける。同企画委員会では事業実施の PDCA サイクルによる検証を毎年度実施する。補助期間中は上記2重の仕組みをもって、大学間の連携取組に齟齬が生じないようにする。



自治体等との関係

本プロジェクトと連携する自治体は、佐賀市、神埼市、唐津市、嬉野市、鹿島市、吉野ケ里市の8市町である。このうち、佐賀市、神埼市、小城市、吉野ケ里町の4市町は、本学と佐賀大学との連携のプロジェクトである。両大学と自治体との連携についてはすでに確約を得ており、十分な協力体制が整っている。これらの市町からは、十分なニーズの聞き取りを行っており、両大学と協働で課題解決を行うことで成果を上げることができる。

例えば、佐賀市においては、中心市街地の活性化と公共交通のUD化が課題となっている。中心市街地については、本学では「街なかサポーター」活動およびイベント等で市民交流による賑わいの創出を通して課題解決を図るが、佐賀大学からも全学教育機構インターフェース科目履修学生との協働でより十全な取組となる。

自治体との事業の共同実施については、8つの連携自治体、NPO、県商工会議所等からの代表者を加えた『「コミュニティ・キャンパス佐賀」推進会議』によって担保することとしている。関係各団体からは参加承諾を得ている。この会議は、この取組の運営母体である『「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」運営委員会』に対して、地域志向教育研究への提言・協力・支援を行う。具体的には、本取組の各プロジェクト会議に対して示唆を頂くことになる。また、事業実施に際しては実質的な支援を頂くことになる。この組織体制をもって、両大学及び各自治体は組織的な連携・協力を行うこととなる。

事業実施計画等

先に述べたとおり、本学では5つのプロジェクト、佐賀大学では7つのプロジェクト、合計で12のプロジェクトを立ち上げる。このうち、7つのプロジェクトを両大学共同で実施する。それぞれの大学が得意とする分野の課題に取り組むことで、佐賀県地域のすべての課題を包括的および網羅的に解決することができる。

また、「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」運営委員会を両大学の教職員および連携機関が共同で立ち上げ、各プロジェクト会議をはじめ、地域を含めた「コミュニティ・キャンパス佐賀」推進会議等を両学連携にて行うことで、両大学がコンセンサスを図りながら取組の円滑な運営ができる。

（様式３）

支援期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

（単位：千円）

補助金申請ができる経費は、事業計画の遂行に必要な経費に限定されます。【年度ごとに1ページ】
平成２５年度は9月から3月の7ヶ月分の必要経費を申請してください。

記載例 ：教材印刷費　〇〇〇千円
〇〇部×@〇〇〇円
：謝金　〇〇〇千円
〇〇人×@〇〇〇円

＜平成２５年度＞　経　費　区　分	金額	備考
［物品費］	5,460	
①設備備品費	4,920	
・サーバ導入・設置費 @2,200千円×一式	2,200	
・デスクトップPC @250×2台	500	
・ノートPC @180千円×4台,タブレットPC @100千円×15台	2,220	
②消耗品費	540	
・ビデオカメラ @90千円×3台	270	
・ボイスレコーダ @30×4個	120	
・消耗品一式	150	
［人件費・謝金］	3,088	
①人件費	2,950	
・コーディネータ人件費 @285千円×6月(賞与含む)	1,900	
・事務補佐員人件費 @160千円×6月(賞与含む)	1,050	
・		
②謝金	138	
・謝金 @1千円×138時間	138	
・		
・		
［旅費］	50	
・打合せ旅費 @2千円×25件	50	
・		
・		
・		
・		
［その他］	8,402	
①外注費	7,900	
・WEBシステム構築費一式	7,500	
・WEBサイト構築費一式	400	
・		
②印刷製本費	500	
・年次報告書作成印刷費 @500×1	500	
・		
・		
③会議費		
・		
・		
・		
④通信運搬費	2	
・連絡用送料	2	
・		
・		
⑤光熱水料		
・		
・		
・		
⑥その他（地域志向教育研究経費）		
・		
⑥その他（委託費）		
・		
・		
⑥その他（上記以外のその他経費）		
・		
・		
平成２５年度　合計	17,000	

（前ページの続き）

（単位：千円）

＜平成２６年度＞　　経　費　区　分	金額	備考
[物品費]	5,150	
①設備備品費	3,200	
・眼球運動測定装置 @1,350千円×1台	1,350	
・ロータリーエバポレータシステム @1,100千円×1台	1,100	
・ノートPC @175千円×2台,振とう機 @300×1台,光電比色計 @100×1台	750	
②消耗品費	1,950	
・機能性研究用消耗品一式	850	
・調査分析ソフト(SPSS) @100千円×2式	200	
・その他消耗品一式	900	
[人件費・謝金]	7,756	
①人件費	7,000	
・コーディネータ人件費 @285千円×12月(賞与含む)	4,500	
・事務補佐員人件費 @160千円×12月(賞与含む)	2,500	
・		
②謝金	756	
・非常勤講師謝金 @10千円×14回	140	
・現地指導者謝金 @5千円×5回	25	
・調査協力者謝金 @1千円×591時間	591	
[旅費]	1,254	
・出張旅費 @50千円×12件	600	
・バス運行料 @5千円×10回,@9千円×22回,@10千円×21回	458	
・会議,調査交通費 2千円×98件	196	
・		
・		
・		
・		
・		
[その他]	2,840	
①外注費		
・		
・		
・		
②印刷製本費	500	
・年次報告書作成印刷費 @500×1	500	
・		
・		
③会議費	102	
・打合せ会場費 @3千円×34回	102	
・		
・		
④通信運搬費	48	
・調査依頼送料	48	
・		
・		
⑤光熱水料		
・		
・		
・		
⑥その他（地域志向教育研究経費）		
・		
⑥その他（委託費）	2,060	
・動物実験有効性試験料 @800千円×1,テープ起こし@40千円×8回	1,120	
・WEBシステム保守料 @70千円×12月,WEBサイト保守料 @100千円×1年	940	
⑥その他（上記以外のその他経費）	130	
・学会参加費 @10千円×13件	130	
・		
平成２６年度　合計	17,000	

（前ページの続き）

（単位：千円）

＜平成２７年度＞　　経　費　区　分	金額	備考
［物品費］	5,376	
①設備備品費	3,550	
・重心動揺計 @1,000千円×1台	1,000	
・液体クロマトシステム @2,550千円×1式	2,550	
・		
②消耗品費	1,826	
・機能性研究用消耗品一式	683	
・調査分析ソフト(SPSS) @100千円×2式	200	
・その他消耗品一式	943	
［人件費・謝金］	8,232	
①人件費	7,000	
・コーディネータ人件費 @285千円×12月(賞与含む)	4,500	
・事務補佐員人件費 @160千円×12月(賞与含む)	2,500	
・		
②謝金	1,232	
・非常勤講師謝金 @10千円×34回	340	
・現地指導者謝金 @5千円×20回	100	
・調査協力者謝金 @1千円×792時間	792	
［旅費］	1,268	
・出張旅費 @50千円×13回	650	
・バス運行料 @5千円×10回,@9千円×10回,@10千円×31回	450	
・会議,調査交通費 @2千円×84件	168	
・		
・		
・		
・		
・		
［その他］	2,124	
①外注費		
・		
・		
・		
②印刷製本費	500	
・年次報告書作成印刷費 @500×1	500	
・		
・		
③会議費	66	
・打合せ会場費 @3千円×22回	66	
・		
・		
④通信運搬費	48	
・調査依頼送料	48	
・		
・		
⑤光熱水料		
・		
・		
・		
⑥その他（地域志向教育研究経費）		
⑥その他（委託費）	1,260	
・テープ起こし@40千円×8回	320	
・WEBシステム保守料 @70千円×12月,WEBサイト保守料 @100千円×1年	940	
⑥その他（上記以外のその他経費）	250	
・学会参加費 @10千円×25回	250	
・		
平成２７年度　合計	17,000	

（前ページの続き）

（単位：千円）

＜平成２８年度＞　　経　費　区　分	金額	備考
［物品費］	2,655	
①設備備品費		
・		
・		
・		
②消耗品費	2,655	
・データ解析ソフト @700×1式	700	
・機能性研究用消耗品一式	850	
・その他消耗品一式	1,105	
［人件費・謝金］	8,811	
①人件費	7,000	
・コーディネータ人件費 @285千円×12月(賞与含む)	4,500	
・事務補佐員人件費 @160千円×12月(賞与含む)	2,500	
・		
②謝金	1,811	
・非常勤講師謝金 @10千円×64回	640	
・現地指導者謝金 @5千円×20回	100	
・調査協力者謝金 @40千円×4回,@1千円×911時間	1,071	
［旅費］	1,500	
・出張旅費 @50千円×13回	650	
・バス運行料 @5千円×10回,@10千円×63回	680	
・会議,調査交通費 @2千円×75回	170	
・		
・		
・		
・		
・		
［その他］	4,034	
①外注費		
・		
・		
・		
②印刷製本費	560	
・調査結果報告書作成費 @60千円×1	60	
・年次報告書作成印刷費 @500×1	500	
・		
③会議費	58	
・打合せ会場費 @3千円×16回,@5千円×2回	58	
・		
・		
④通信運搬費	56	
・調査依頼送料	56	
・		
・		
⑤光熱水料		
・		
⑥その他（地域志向教育研究経費）		
・		
⑥その他（委託費）	2,710	
・テープ起こし@40千円×8回	320	
・WEBシステム保守料 @70千円×12月,WEBサイト保守料 @100千円×1年	940	
・成分分析,毒性試験委託費 @950千円×1,パッケージ料 @500千円×1	1,450	
⑥その他（上記以外のその他経費）	650	
・学会参加費	250	
・特許,商品登録料	300	
・研究成果広報費	100	
平成２８年度　合計	17,000	

（前ページの続き）

（単位：千円）

＜平成29年度＞　経　費　区　分	金額	備考
［物品費］	2,078	
①設備備品費		
・		
・		
・		
②消耗品費	2,078	
・統計処理ソフト(SPSS) @170千円×2式	340	
・機能性研究,商品開発用消耗品一式	800	
・その他消耗品一式	938	
［人件費・謝金］	8,701	
①人件費	7,000	
・コーディネータ人件費 @285千円×12月(賞与含む)	4,500	
・事務補佐員人件費 @160千円×12月(賞与含む)	2,500	
・		
②謝金	1,701	
・現地指導者,ヒト介入試験謝礼 @10千円×64回	640	
・現地指導者謝金 @5千円×20回,TA謝金 @1千円×30時間	130	
・調査協力者謝金 @1千円×841時間	841	
・調査データ分析謝金 @45千円×2回	90	
［旅費］	1,579	
・出張旅費 @50千円×16件	800	
・バス運行料 @10千円×52回,@9千円×8回,5千円×5回	617	
・会議,調査交通費 @2千円×81件	162	
・		
・		
・		
・		
［その他］	4,642	
①外注費		
・		
・		
・		
②印刷製本費	1,066	
・プロジェクト報告書作成費 @360千円×1	360	
・事業報告書作成費 @706千円×1	706	
・		
③会議費	52	
・打合せ会場費 @3千円×16回,@4千円×1回	52	
・		
・		
④通信運搬費	84	
・調査依頼送料	84	
⑤光熱水料		
・		
⑥その他（地域志向教育研究経費）		
・		
⑥その他（委託費）	2,610	
・テープ起こし@40千円×8回	320	
・WEBシステム保守料 @70千円×12月,WEBサイト保守料 @100千円×1年	940	
・成分分析,毒性試験委託費 @900千円×1,パッケージ料 @450千円×1	1,350	
⑥その他（上記以外のその他経費）	830	
・学会参加費 @10千円×23件	230	
・特許,商品登録料	300	
・研究成果広報費	100	
・公共交通システム開発委託費	200	
平成29年度　合計	17,000	

（様式４）

平成２５年度「地（知）の拠点整備事業」 大学の基本情報

Ⅰ．学部等の規模

学部名等	学科名等	入学定員	志願者数	入学者数	在籍者数
健康福祉学部	健康栄養学科	130 名	248 名	139 名	491 名
	社会福祉学科	120 名	164 名	99 名	394 名
	小　計	250 名	412 名	238 名	885 名
リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	80 名	211 名	93 名	354 名
	小　計	80 名	211 名	93 名	354 名
子ども学部	子ども学科	80 名	225 名	81 名	364 名
	小　計	80 名	225 名	81 名	364 名
合　計		410 名	848 名	412 名	1603 名

Ⅱ．県内入学者数

学部名等	入学者数（A）	うち県内 入学者数（B）	比率（B/A）
健康福祉学部	238 名	94 名	39.49%
リハビリテーション学部	93 名	34 名	36.55%
子ども学部	81 名	33 名	40.74%
合　計	412 名	161 名	39.07%

Ⅲ．県内就職者数

学部名等	卒業者数（A）	就職者数（B）	うち県内就職者数（C）	比率（C/B）
健康福祉学部　健康栄養学科	89	70	17	24．3%
健康福祉学部　社会福祉学科	101	89	35	39．3%
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	63	55	20	36．4%
子ども学部　子ども学科	57	50	34	68．0%
合　計	310	264	106	40．2%

Ⅳ．シラバスにおいて地域に関する学修を行うことを明示している授業科目一覧（数が多い場合は別添（様式自由））

別添参照

Ⅴ．地元企業等との共同研究・寄付講座一覧（数が多い場合は別添（様式自由））

No.	本学研究者	共同研究名称	共同研究機関	概要
1	梅木陽子	アスパラガスパウダーを使った新商品（麺等）の開発に関する研究	国立大学法人 佐賀大学 有限会社 佐嘉の絲	有限会社 佐賀の絲が新たに開発している新商品に係る成分分析研究、食味試験研究を佐賀大学・西九州大学と共同で、さが機能性・健康食品開発拠点を利用して行う。
2	柳田　晃良	「高オレイン酸含有ダイズ」のタンパク質組成等に関する研究	国立大学法人 佐賀大学	佐賀大学の穴井准教授が開発した「高オレイン酸含有ダイズ」中のタンパク質組成等の分析を行う。
3	安田　みどり 大渡　瞳	西九州大学商品開発研究事業	神埼市	市との共同研究による、ヒシの皮に生活習慣病予防食品素材が含まれており、その素材の成分の特定化と効能を確認する研究を行う。

Ⅵ. 公開講座一覧（数が多い場合は別添（様式自由））

別添参照

Ⅶ. その他（様式2「Ⅲ. 地域を志向した教育・研究・社会貢献の現状と達成状況」に記載した定量的・定性的な目標のバックデータなど、上記以外の補足のデータ）

平成 24 年度あすなろうセンター人員派遣実績一覧表

平成24年度あすなろう体験活動の実施状況

	活動日	イベント(ボランティア)の名称	具体的な活動内容	主催者	参加者
1	4/21	マメ行者プロジェクト「畑の楽校」	アンデス山脈原産の芋ヤーコンの定植、農作業	マメ行者プロジェクト実行委員会	0
2	5/12～5/13	子どもふれあい体験キャンプ	北山少年自然の家でのキャンプ班付、プログラム手伝いなど	佐賀県キャンプ協会	6
3	4/14	サガン鳥栖ボランティア	チケットもぎり、ごみ回収、場内整備、誘導、身障者の介添え	株式会社サガン・ドリームス	0
4	5/20	障がい者スポーツ大会	障がい者スポーツ大会における、介助などのスタッフ	佐賀県障がい者スポーツ大会	5
5	4/16～9/30	託児スタッフ	就学前児童の託児ボランティア	ピアふれんど	0
6	4/25～4/26	朝日山学園ピクニック	ピクニックでのボランティア	社会福祉法人　あさひ会生活介護事業所　朝日山学園	0
7	[illegible]	[illegible]	[illegible]絵本ライブ時の託児ボランティア	神埼市立図書館	3
		省略			
297	11/17	かんざき市民交流会ひしぼうろの販売	かんざき市民交流会でのひしぼうろの販売	[illegible]	2
298	11/17	小城普茶料理	普茶料理の調理、盛り付け、配膳、食事会の接待、後片付け	西九州大学食育サポートセンター	4
299	8/18～20	チャレンジキャンプ2012	キャンプ活動を支える食事の作成と食育の提案	特定非営利活動法人　愛えん	2
300	11/17	介護の魅力を語り合おう	事業説明、フリートーク、アンケート	複数事業所連携事業	0
301	10/27	福祉フェスティバル	イベント運営補助	西九州大学社会福祉学科	3
302	11/24	映画上映イベント	「隣る人」映画受付、ロビーでの案内など	特定非営利活動法人　愛えん	10
303	10/27	ケアパートナー佐賀お誕生日会	トーンチャイム演奏	ケアパートナー佐賀	0
304	1/26	少年野球チームの野球肘検診の集い	少年野球チームの検診の補助、誘導	西九州大学リハビリテーション学科	0
参加学生数計					2,317

平成２５年度「地（知）の拠点整備事業」申請書
様式４-Ⅳ. 添付資料「シラバスにおいて地域に関する学修を行うことを明示している授業科目一覧」

No.	専門/教養	開講学科	授業科目名	概要
1	専門教育科目	健康栄養学科	調理科学実験	地域特産物のお茶をツールとした教育を行っている。吉野ヶ里町の日本茶発祥の地にて、地元の方に説明を受けながら茶摘みを行い、その生葉を加工してお茶を作り、科学的においしい淹れ方にてお茶を淹れ、味わう。また、茶中のポリフェノールを測定し、その機能性も調べる。
2	専門教育科目	健康栄養学科	公衆衛生学実習	佐賀市エコプラザにて廃棄物処理とリサイクルの現状を見学。水質環境に関する学習の一環として佐賀市上水道施設見学。
3	専門教育科目	健康栄養学科	給食経営管理実習Ⅱ	佐賀県内の給食施設において、新調理システムの現状を見学。
4	専門教育科目	健康栄養学科	栄養教育論実習Ⅰ	神埼市の保育園、小学校において、幼児、児童との交流とともに、食育授業を行っている。
5	専門教育科目	健康栄養学科	公衆栄養学Ⅰ	公衆栄養行政の地方計画や食育計画について佐賀県の事例をもとに解説を行っている。
6	専門教育科目	健康栄養学科	公衆栄養学Ⅱ	母子をはじめ各ライフステージの対象者に対する公衆栄養プログラムや特定給食施設や食環境整備に関してのプログラムの実際について、佐賀県内自治体の実施例をもとに解説を行っている。
7	専門教育科目	健康栄養学科	公衆栄養学実習	佐賀県内をはじめとした自治体統計資料に基づき、地域集団のアセスメント、公衆栄養プログラムの企画書、体系図、指導計画書、広報媒体、評価計画、フィードバックの方法に至る公衆栄養マネジメントの実際について実習を展開している。
8	専門教育科目	健康栄養学科	臨地実習Ⅲ（公衆栄養）	佐賀県内をはじめとした保健所、保健センターにおいて、公衆栄養活動の基本事項である地域の健康・栄養問題に関する実態把握の手法、地域住民の健康、福祉、食育等に係る業務、他職種、関係団体、地域住民組織との連携について基本的な事項を学ぶ。
9	専門教育科目	健康栄養学科	卒業研究・演習	栄養に関する知識の総括ならびに再構築を指導し、管理栄養士としての更なる知識を教授し、自分の立てた目標に向けてのアプローチ法を獲得させる。
10	専門教育科目	社会福祉学科	障害者ソーシャルワーク	障害者に対する理論を学習した上で、地域の障害者施設にて実習を行い、実践力の養成を行っている。
11	専門教育科目	社会福祉学科	高齢者ソーシャルワーク	高齢者への支援について関心を高めるため、地域で展開する福祉施設の見学や認知症サポーター研修の受講、学内施設で高齢者へのデイプログラムの企画、提供を行っている。
12	専門教育科目	社会福祉学科	多文化ソーシャルワーク	社会に存在する多情な文化や価値観について、人類学、社会学、社会福祉学の観点から説明を行っている。
13	専門教育科目	社会福祉学科	高齢者福祉論	現代社会における高齢者福祉の需要や取り巻く環境等を通して老人福祉の意義について理解し、今日までの史的変遷や今日的動向及び介護保険制度を中心とした高齢者福祉に関わる法制度について学ぶ。
14	専門教育科目	社会福祉学科	発展ゼミナールⅣ（含卒業研究）	総合ゼミナールⅢを踏まえて指導教員の指導を受けながら卒業論文を作成する。その過程を通して、論理的な思考力を養い、それらを他社にわかりやすく伝える技術を習得することをねらいとする。また、学士の学位授与に値する知識の習得を目標とする。

No.	専門/教養	開講学科	授業科目名	概要
15	専門教育科目	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 （必修）	地域作業療法学	地域におけるリハビリテーションや作業療法の関連法規を理解したうえで，地域作業療法対象者の評価・支援内容について事例を通して学ぶ.
16	専門教育科目	リハビリテーション学科 作業療法学専攻 （必修）	地域作業療法学演習	地域リハビリテーションのニーズや役割を体験するために，障害者の就労支援施設，地域移行支援施設，介護実習普及センターへの課外活動を行う. また，学内に地域高齢者を招き，心身機能の検査・作業療法を実施し，作業療法援助の実践を学ぶ.
17	専門教育科目	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 （必修）	地域理学療法学	地域理学療法を実践するために，生活機能改善の可能性やリハビリテーション技術，関連サービスについて学ぶ.
18	専門教育科目	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 （必修）	生活環境論	地域リハビリテーション実践のために，生活環境評価，住宅改修のプランニング等について学ぶ.
19	専門教育科目	リハビリテーション学科	卒業研究	4年間の学部教育で学んだ理学療法および作業療法に関する知識と臨床実習での経験を再認識した上で、理学療法学研究法、作業療法学研究法で学んだ研究手法を用い、各自の研究テーマを焦点化し、指導教員の指導の下に研究実施し研究論文としてまとめ、提出・発表を行う。
20	専門教育科目	子ども学科	子ども学演習	この授業では、子どもを取り巻く様々な環境問題、子どもの歴史、心身の発達、遊び、子どもを対象とした表現活動、子どもの福祉など、子ども学に関する基礎知識を深める。授業では、1）文献資料の収集、2）調査・実験、3）レポートの作成、4）発表や討論、5）地域の子育て支援体験活動を行い、主体的な学習力の向上をめざす。また、子どもに関する知識や理解を深めるため、実地見学や観察、調査などの体験的学習を積極的に行う。
21	専門教育科目	子ども学科	学校インターンシップ	地域連携小学校での授業参観・学校サポート隊の体験を通じて、自分の今後の目標にさせる。また、この科目は、保幼小のつなぎを視野に入れた授業展開を考える
22	専門教育科目	子ども学科	子育て支援	子育て支援の歴史、背景、政策や現状及び課題を概説する。そのうえで、乳幼児期～未就学期、小学生期に焦点をあてた子育て支援活動に関する情報提供を行う。大学内外で実際に行われている活動の見学・観察・実践を通して、子ども・保護者や家族に対する支援の方法を体得しながら、教育保育者・子育て支援者に必要なスキル対人援助技術の基礎を培うことをねらいとする。主として子どもには遊びの提供、保育者家族には子育てに関する情報提供等を行うことができるようにする。
23	専門教育科目	子ども学科	卒業研究	「子ども学」領域において、各分野・学問に応じた教育研究や学術研究等を遂行し、その成果を提出・報告する。子ども学科における4年間の学習の集大成として位置付け、ディプロマ・ポリシーで求められている力を総合的に練磨する。
24	教養教育科目	全学科共通	あすなろう体験Ⅰ（基礎）	本学の建学精神である「あすなろう」に基づき、幅広くかつ明確な職業観を養うための基礎を身につけるとともに、社会人として求められる基礎力を理解することをねらいとする。そのため、専門分野にとらわれない学内外における幅広い活動への参加・参画体験機会を提供する。
25	教養教育科目	全学科共通	あすなろう体験Ⅱ（実践）	「あすなろう体験Ⅰ（基礎）」で身につけた、幅広くかつ明確な職業観を養うための基礎と社会人基礎力の知識を活かした学内外の企業インターンシップ・海外インターンシップ等への参加を通じて、職業人としての「総合的な社会的知性」を習得することをねらいとする。
26	教養教育科目	全学科共通	あすなろう体験Ⅲ（応用実践）	あすなろう体験Ⅰ、体験Ⅱそれぞれで身につけた幅博職業観や社会人基礎力、そして総合的な社会的知性を応用しながら実践する能力を養うことをねらいとする。そのため、市民社会組織(CSO)や企業等と協働して地域活性化や地域づくり事業を企画・運営する機会を提供する。

様式4-Ⅵ. 添付資料「公開講座一覧」

No.	講座名	講座概要
1	細胞分裂っておもしろい！？	人の体がたくさんの細胞で作られていることは皆さん知っていますね。その数は、成人の場合、約60兆個、生まれたばかりの赤ん坊で約3兆個といわれています。でも、その始まりは、受精卵というたった1個の細胞です。もし、1秒間に1個の割合で細胞が増えるとしたら、3兆個の細胞を作るのにどのくらいの時間がかかるのでしょうか？　ちょっと計算してみましょう。もちろん3兆秒ですよね！　でも、3兆秒ってどのくらいの時間？　実は、9万6千4百年余りなのです！？？？
2	子どもの実験教室「食べ物の不思議」	身近な食材を使った簡単な実験を通して、科学に対する興味や関心を深めてもらうことを目的とする。今回は、果物の秘密を解き明かす実験を行う。 1）パイナップルを食べるとなぜ舌が痛くなるの？ 2）リンゴをむくと茶色になるのはなぜ？ 以上のテーマで行う。
3	現代の多様化した栄養問題を斬る！	現在、肥満やメタボが栄養問題としてクローズアップされています。一方、入院している患者さんの約3割は低栄養状態になっているといわれています。また、若年女性のダイエットは低出生体重児の増加に影響しています。現代の日本における多様化した栄養問題について一緒に考えていきましょう。
4	有明海浮泥の不思議 ～染色への利用～	有明海の特徴の一つは浮泥により海水が濁っていることです。この浮泥の働きについてわかりやすく説明します。この浮泥を用いて楽しい時間を過ごせたらと思います。
5	ミトコンドリアから生命を考える。	細胞小器官ミトコンドリアを焦点に、その基礎から老化・メタボ・進化などについて概説し、基礎知識の理解を深めたい。 1　生命の階層性、細胞小器官ミトコンドリアの機能 2　ミトコンドリアと老化 3　ミトコンドリアと生活習慣病等 4　ミトコンドリアと進化、ほか豆知識
6	子ども学入門	『子ども学のすすめ』（2012年、佐賀新聞社刊）をテキストに、子どもと子どもの育ち、子どもをめぐる環境変化について、多角的に考察する。
7	「ようこそ!　デジタル水彩画工房へ」	デジタルカメラで撮影した風景写真などが、コンピュータを使ってそのまま簡単にすばらしい水彩絵画の作品になります。写真の輪郭線をワンクリックで抽出できますので、パソコンやデッサンが苦手な方でも楽しく気軽に塗り絵感覚で彩色することが可能です。
8	なるほど！！権利擁護 「成年後見制度」を理解しよう!!	措置から契約へと利用制度が大きく転換した福祉社会。昨今、利用者の権利侵害等が問題となる中で、どのようにすれば利用者の権利を守っていけるか？ 権利擁護の基本的視点から、成年後見制度の概要や成年後見人の実際の活動、課題について、事例等を用いながらわかりやすく講義します。
9	「子どもは食べ物でこんなに変わる　―心と脳は食べ物に影響される―」	国は、4月19日「食育の日」や食育基本法などを定め、「食育」に力をいれています。乳幼児期や学童期の子どもたちは、体の基礎ができるときであり、「食べ物」で体は作られていることは、皆様もご承知の通りです。同時に、心や脳まで影響していることはあまり知られていません。今回は「食べ物」で、心や脳まで作られている（影響）ことに触れてみたいと思います。
10	みんなで支える介護	高齢化社会のなかで高齢者介護の問題が深刻化しています。佐賀県での実態を通して、これからの高齢者介護について考えてみましょう。
11	ボランティアと生きがい　～新たな自分発見のヒント～	ボランティアの基本的な考え方と実践内容を確認し、ボランティアによる社会参加の意義と自他に及ぼす効果について解説します。また、具体的な実践事例をとおして自らの世界を拓く地域支援のあり方について共に学びます。
12	福祉施設におけるレクリエーション援助の計画と実施～個別援助から集団援助への視点～	入所型・通所型福祉施設のレクリエーションがマンネリ化し、利用者から魅力が感じられない経験は多くの施設の課題の一つです。団塊の世代が利用を始める福祉施設に求められる福祉レクリエーションの考え方について共に学びます。

様式4-Ⅵ. 添付資料「公開講座一覧」

No.	講座名	講座概要
13	健康のために「計・側・量」タニタ食堂（仮題）	自分を知るために「はかり」、美味しく食べるために「はかり」、元気に消費するために「はかり」ましょう。健康を維持するために「はかる」習慣をつけましょう。
14	生活習慣病予防…「転ばぬ先の食生活」、「働き盛りの食生活」、「元気はつらつ！食生活」	”メタボリックシンドローム”の概念を念頭に、より具体的な食の提言と啓蒙
15	高齢者の食…「介護予防の食生活」	高齢者や家族を対象に、介護状態にならないために、高齢者の特徴、食について考慮すべき点、嚥下困難に対する対応などが、その内容。
16	「患者術　～病院の上手な活用法～　」	自分にとって最適の医療を受けるための患者術として、医療サービスの仕組みやセカンドオピニオンなどの医療用語、病院との付き合い方についてお話します。
17	考古学と環境変動	地域温暖化が深刻な問題になっているなかで、人間と自然の共生を改めて考える必要はある。考古学は直接に環境変動に伴う問題を解決できないが、過去の人々がどのように自然と関わり、どのように環境変動に適応したかとう視点から考えると参考になることは少なくない。ここでは日本、ヴァイキングやマヤ文明などの例を紹介しながら、考古学と環境変動との関係を探究する。
18	中学生でもわかる哲学入門	中学生でも理解可能な西洋哲学入門です。「わかりやすく」、「おもしろく」をモットーに、難解だといわれる哲学理論にチャレンジ！一方通行の講義ではありません。みなさんと一緒になって考える双方向型授業です。
19	アートセラピーを通したこころの健康促進～自己理解・他者理解・相互理解～	「こころの時代」と言われながらも、社会的不適応など生き辛さを訴える人々が増えています。本講座では、アートセラピー（表現療法）のひとつである、箱庭療法、コラージュ療法、粘土療法の技法を用いて、自己の内面に耳を傾け、自己のありようや他者との関係などふり返り、こころの健康の維持や増進に役立ててもらいたいと思います。
20	認知症の体験世界を感じてみましょう	認知症に伴う記憶障害などの症状は、ご本人にとって大きな不安や戸惑いを生じさせます。しかし、それを言葉や行動で伝えることが困難となるのも認知症の大きな特徴です。そこで、認知症の方の言葉や介護場面の出来事をもとに、ご本人の不安や戸惑い、ケアのヒントについて考えてみたいと思います。
21	「これであなたも介助の達人」	寝返り・起き上がり・立ち上がりなどに困難を有する方への介助法
22	厄介な痛みと、どう付き合いますか？	痛みは、複雑で主観的な知覚であり、生活の質を落とす不快な現象です。しかし、困ったことに外から見えないため、本人に苦痛を与えるだけでなく、家族や周囲の人を巻き込むことがあります。この痛みとの付き合い方について、お話したいと思います。
23	子育て支援講座「地域における子育ち、子育て支援力とは」	子どもが育つ環境について、特に地域社会と家族の諸問題にふれ、いま、行政や地域等々で行われている子育て支援の実情、活動を紹介します。そのうえで、これから、わたしたち大人が子どもにできることはなにか考えていきます。
24	シニア世代を豊かに（家族や友だちに好感をもってもらうために）	人間は皆、人様によって「生かされている」のではないでしょうか？歳を重ねるごとにこの思いも強く感じていくのかもしれません。　シニア世代を豊かに過ごすための大切なものを、一緒に考えてみませんか？
25	食の安全性	食の安全性については誰でも関心があり、食品添加物、農薬、遺伝子組み換え食品等についてどのように摂取すればよいのか分からないのが現状です。そこで皆様と一緒にこれらのことについて考えてみたいと思います。
26	運動の「コツ」が見つかる体育遊び	多様な動きを経験できる遊びを行います。〈できる〉体験を積み重ねていくなかで、マット運動の「後転」、跳び箱運動の「開脚跳び越し」、鉄棒の運動「逆上がり」などが上手くいくコツを見つけられるような内容となっています。

様式4-Ⅵ. 添付資料「公開講座一覧」

No.	講座名	講座概要
27	働き盛りのための ストレス・マネージメント	ストレス社会である。職場での人間関係やハードな仕事内容によって、特にその皺寄せは働き盛りの人に最も波及しやすい。そこで本講座では、そのストレス・マネジメントの方法について演習と説明を加える。
28	ボランティア活動の 基本的理念と今日の課題	今日多くの人が関わるようになったボランティア活動について、その言葉の由来や歴史を学び、ボランティア活動とは何かを考える。特に、日本における最近の動向や課題について、具体的な事例をあげて検証する。
29	点字を学ぶ (点字が読み書きできるまで学ぶコース)	視覚障害者が使用する文字である点字はどのようなルールに基づいて構成されているのか、点訳するときの規則にはどのようなものがあるのか、今日の主流であるパソコン点訳はどこまで進んでいるのかなどについて学ぶ。
30	基礎科学から深める心理学	発生と分化から心理学に至る脳科学基礎を概説し、ヒトの生物的存在から心理(認知)に対する理解を深めたい。 1　発生と分化、脳と発達 2　大脳神経科学 3　認知科学(心理へのアプローチ)
31	生活習慣病予防…「転ばぬ先の食生活」、「働き盛りの食生活」、「元気はつらつ！食生活」	「転ばぬ先の食生活」では、運動・食事・メンタルの各チェック項目から、対象者が自ら考えて取り入れられる提言を盛り込み「働き盛りの食生活」では、特に脂肪と適正体重の維持をポイントに「元気はつらつ！食生活」では生活習慣病対策を基調に構成。食事バランスガイドについても触れている。
32	高齢者の食…「介護予防の食生活」	高齢者や家族を対象に、介護状態にならないために、高齢者の特徴、食について考慮すべき点、嚥下困難に対する対応などが、その内容。クイズやチェック形式で振返りや気付きを導いて、一汁三菜のイメージでの栄養バランスについての理解を得ようという構成。
33	「患者術　～病院の上手な活用法～　」	自分にとって最適の医療を受けるための患者術として、医療サービスの仕組みやセカンドオピニオンなどの医療用語、病院との付き合い方についてお話します。
34	アートセラピーを通したこころの健康促進 ～自己理解・他者理解・相互理解～	「こころの時代」と言われながらも、社会的不適応など生き辛さを訴える人々が増えています。本講座では、アートセラピー（表現療法）のひとつである、箱庭療法、コラージュ療法、粘土療法の技法を用いて、自己の内面に耳を傾け、自己のありようや他者との関係などふり返り、こころの健康の維持や増進に役立ててもらいたいと思います。
35	認知症の体験世界を感じてみましょう	認知症に伴う記憶障害などの症状は、ご本人にとって大きな不安や戸惑いを生じさせます。しかし、それを言葉や行動で伝えることが困難となるのも認知症の大きな特徴です。そこで、認知症の方の言葉や介護場面の出来事をもとに、ご本人の不安や戸惑い、ケアのヒントについて考えてみたいと思います。
36	働き盛りのためのストレス・マネージメント	ストレス社会である。職場での人間関係やハードな仕事内容によって、特にその皺寄せは働き盛りの人に最も波及しやすい。そこで本講座では、そのストレス・マネジメントの方法について演習と説明を加える。
37	ボランティア活動の 基本的理念と今日の課題	今日多くの人が関わるようになったボランティア活動について、その言葉の由来や歴史を学び、ボランティア活動とは何かを考える。特に、日本における最近の動向や課題について、具体的な事例をあげて検証する。
38	点字を学ぶ （点字が読み書きできるまで学ぶコース）	視覚障害者が使用する文字である点字はどのようなルールに基づいて構成されているのか、点訳するときの規則にはどのようなものがあるのか、今日の主流であるパソコン点訳はどこまで進んでいるのかなどについて学ぶ。
39	考古学と環境変動	地域温暖化が深刻な問題になっているなかで、人間と自然の共生を改めて考える必要はある。考古学は直接に環境変動に伴う問題を解決できないが、過去の人々がどのように自然と関わり、どのように環境変動に適応したかとう視点から考えると参考になることは少なくない。ここでは日本、ヴァイキングやマヤ文明などの例を紹介しながら、考古学と環境変動との関係を探究する。
40	「これであなたも介助の達人」	起居動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり）や移乗動作が困難な方への介助は、対象者にも介助者にも安全で効率がよい方法で行うことが大切です。少しでも効率のよい方法とそのための基本的知識を身につけることで、疲労や危険作を軽減できます。この講座では基本的知識に基づきいろんな場面に応用できる介助法を学びます。
41	厄介な痛みと、どう付き合いますか？	痛みは、複雑で主観的な知覚であり、生活の質を落とす不快な現象です。しかし、困ったことに外から見えないため、本人に苦痛を与えるだけでなく、家族や周囲の人を巻き込むことがあります。この痛みとの付き合い方について、お話したいと思います。

様式4-Ⅵ. 添付資料「公開講座一覧」

No.	講座名	講座概要
42	こころ豊かに生活していくために	現代の社会はストレスに満ちているといわれます。そのストレスに起因すると思われる不健康の問題も最近注目を集めています。このストレスの多い日々の暮らしの中で「こころ豊かに生活」していくためには、仕事、趣味、運動などの、いわゆる「作業バランス」の良い生活の仕方が大切です。そのための、いくつかの工夫についてお話します。
43	子育て支援講座「地域における子育ち、子育て支援力とは」	子どもが育つ環境について、特に地域社会と家族の諸問題にふれ、いま、行政や地域等々で行われている子育て支援の実情、活動を紹介します。そのうえで、これから、わたしたち大人が子どもにできることはなにか考えていきます。
44	食の安全性	食の安全性については誰でも関心があり、食品添加物、食中毒、農薬、遺伝子組み換え食品等についてどのように摂取すればよいのか分からないのが現状です。そこで皆様と一緒にこれらのことについて考えてみたいと思います。
45	中学生でもわかる哲学入門	中学生でも理解可能な西洋哲学入門です。「わかりやすく」、「おもしろく」をモットーに、難解だといわれる哲学理論にチャレンジ！一方通行の講義ではありません。みなさんと一緒になって考える双方向型授業です。
46	シニア世代を豊かに（家族や友だちに好感をもってもらうために）	人間は皆、人様によって「生かされている」のではないでしょうか？歳を重ねるごとにこの思いも強く感じていくのかもしれません。シニア世代を豊かに過ごすための大切なものを、一緒に考えてみませんか？
47	運動の「コツ」が見つかる体育遊び	多様な動きを経験できる遊びを行います。〈できる〉体験を積み重ねていくなかで、マット運動の「後転」、跳び箱運動の「開脚跳び越し」、鉄棒の運動「逆上がり」などが上手くいくコツを見つけられるような内容となっています。
48	家庭でできる「簡単」「楽しい」親子遊び	親子で楽しめる簡単な遊びを紹介します。親子のコミュニケーションを深めたり、子どもの感性や能力を助長したりできるような内容となっています。 第1回…「親子ふれあい遊び」（米倉） 第2回…「絵本の世界で運動遊び」（西田） 第3回…「親子リトミック」（野口）